

福島第一原子力発電所の廃炉に向けた取組状況について

1 プール燃料取り出し

燃料取り出し：1～6号機の全てで2031年内までに完了させる。

1号機	開始予定	2027～2028年度
2号機	開始予定	2024～2026年度
3号機	完了予定	2020年度内
4号機	完了	2014年
5号機	開始予定	2023年度以降
6号機	開始予定	2022年度

〔使用済燃料プールからの燃料取り出し〕



1号機

・大型カバーを設置予定

ガレキ撤去に伴う放射性物質の飛散等に対して、より安全に作業を進める観点から「大型カバーを先行設置し、カバー内でガレキ撤去を行う工法」に変更された。

2号機

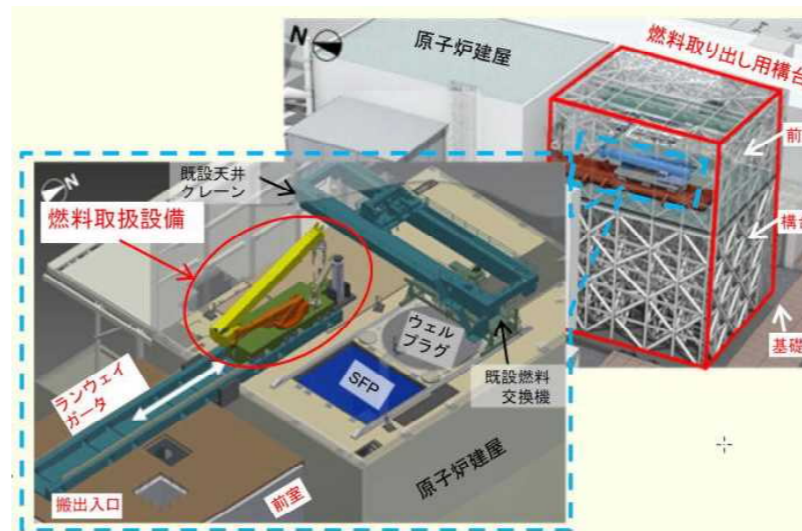
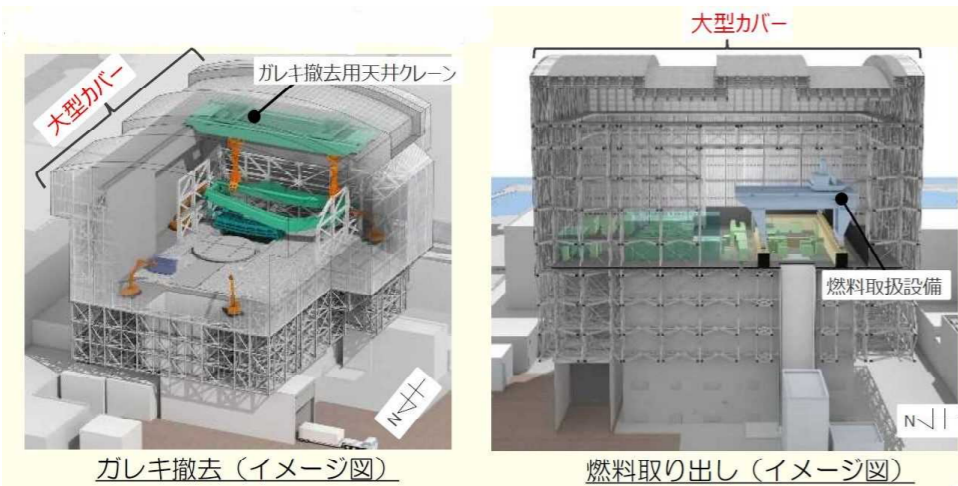
・小規模開口部からのアクセス工法を選択

オペフロ内調査により、想定よりも線量が低い事が確認されたことを受け、ダスト管理や作業被曝の低減の観点から建屋南側に小規模開口部を設置しアクセスする工法を選択した。

3号機

・使用済燃料の取出し作業継続。

2019年4月に燃料取出しを開始。
2020年3月末までに566体中119体を共用プールに移動済。2020年度内に全数完了予定。



2 燃料デブリ取り出し

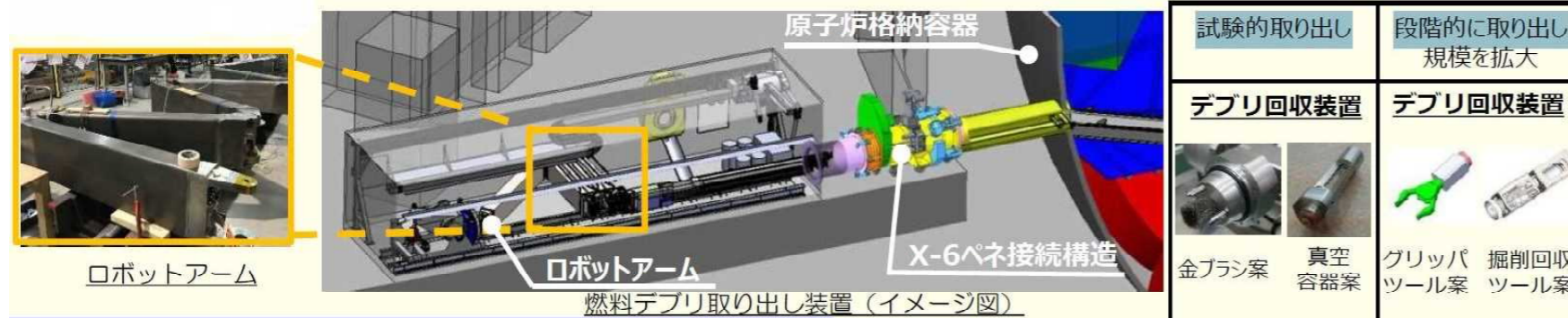
燃料デブリ取り出し：2号機から着手し3号機の検討を進め、1号機に展開していく

2号機	試験的取り出し	2021年内
2号機	段階的な規模の拡大	2023年以降

〔燃料デブリ取り出し〕



デブリ取り出しの初号機は、昨年2月に実施した格納容器下部の燃料デブリへの接触調査による性状把握や原子炉格納容器へアクセスするための原子炉建屋内の環境整備状況などを考慮し、2号機が妥当と評価された。取り出し工法としては、ロボットアームを活用し、試験的な取り出しに着手した後、取り出し方法の検証や確認を行った上で、段階的に取り出しの規模を拡大していく。



3 汚染水対策

- 汚染水発生量の抑制目標

2020年内	150トン/1日	程度
2025年内	100トン/1日	以下

- 多核種除去設備等の処理水
 - 「多核種除去設備等による処理水の取扱いに関する小委員会」報告書（2020年2月）
 - ・「海洋放出」と「水蒸気放出」の2方法に絞る。
 - ・「小委員会では専門的な見地からの検討を実施するものであり、関係者間の意見調整を行うものではない」
 - ・「政府は地元を始めとした幅広い関係者の意見を丁寧に聞きながら、政府としての方針を決定することを期待する。」